

第5回 日の里学園 学園運営協議会・議事録・1.20 確定版

令和5年1月20日(金) 日の東中学校 図書室 18:30~19:30

開会の挨拶・黒川会長より：今年も日の里学園のために、熟議を通してよりよい支援をしていきたい。今回は学校関係者評価について学校からの説明の後、次年度に学園としてどのようなことに重点を置いて教育活動や学園経営を行ってみたいかについて意見交流をお願いしたい。

1 日程説明・前回の確認

日程説明（事務局：北岡 Co）前回の議事録の確認（事務局：大庭主幹）

2 議事

① 学校評価アンケートの報告（大庭主幹）

（吉田委員）：チャレンジ10の取組と保護者の設問が合っていない。保護者は通常の宿題の一つとして考えているだけなので、取組の意図を家庭に伝える必要がある。また、設問に合ったような取組を行う必要がある。

② 各部での協議「学校評価アンケート結果に基づいた今後の方向性」

③ 協議内容の報告

【教育支援部】

（杏形教頭）：学園サポーター制度についての意見交流を行った。サポーターの方に見通しをもって参加してもらうために、日の里カリキュラムの全体像を示し、日程を早めに周知していく。サポーター同士の関わりが増えれば、もっと参加が多くなると考える。高齢者のサポーターの方から「やっと参加できた」という声を頂いた。子どもに関わってもらうことが、高齢者の生きがいになるような、サポーターの方の居場所づくりにも貢献できたらよい。特技や趣味など、サポーターの方が持っている力を把握して、教育活動への支援を頂くことが大切である。地域の方や子ども達の両者がわくわくすることを増やしていきたい。

【協働部】

（末崎委員）：地域と協働する好事例がたくさんある。生徒会役員と地域が情報交換するための月1回の会議：「愛考会」では学校と地域のイベントとの連携を行い、生徒会新聞を通して、小学校にも活動を知らせている。また、水害の防災訓練は市からコミュニティへ依頼があったが、それを中学校も巻き込んで一緒に企画し、子どもの教育の一助となるよう工夫している。その協働関係が素晴らしく、日の里カリキュラムにも厚みが出ている。ただ、学校評価では地域との関わりの評価項目で、子どもの結果が低いのが疑問である。子どもは設問に対して、学習の中で地域と関わったことを省いて答えているのではないか。子どもが答えにくい設問なら、文言を精査しなければならない。日の里カリキュラムの成果と課題を、常に更新していくことが大切である。

【地域貢献部】

（藤島教頭）：学校評価を完全なアンケートにするために、アンケートの作り方を検討し、学園の教育目標である「地域のことを愛する」に向かって、どんな視点が必要なのかを考える必要がある。例えば「地域参加」という項目については、学校ができる地域参加と、家庭ができる地域への参加には違いがあるので、家庭の評価項目はどんな文言がよいか、代表の方に考えてもらって、意見を吸い上げることが必要である。また、設問では子どもの地域への思いを保護者がどう捉えているかを聞いているので、子どもの頭の中を可視化するような「地域貢献のことを考えたかどうか」を推し量る手だてが必要である。さらに、一方的な質問で保護者に聞くだけではなく、通信の返信欄などの工夫が必要である。またベンチ製作の中学生のがんばりを回覧版で地域に紹介するなど、地域としても、家庭に子どもが地域参加する姿を知らせ、さらに地域に参加するように働きかけてほしい。

3 次回の日程・内容の確認（事務局：北岡CO）

閉会の挨拶（森副会長）：学校運営協議会の中心は学校関係者評価をいかに行うかである。今回のアンケート結果は、学校関係者評価をするための資料と、両方兼ねている。学校の自己評価の妥当性について、委員の皆さんから意見をもらうための、学校の自己評価表が別に必要である。自己評価されたものを、委員は「もっとこうしたらいい」という手立てを提案できる。今のよう、何も無いところを評価するのは厳しい。今回のものは、自己評価のためのアンケート資料である。項目は、家庭は家庭の代表、地域は地域の代表が作る。それを運営協議会で議論することに価値がある。